



穂 苙

第 13 号

令和 4 年 12 月 1 日発行

<http://toyoura.shibata.ed.jp>

自分の個性を認め、活かす～ひび割れ壺と少年の話から～

校長 伊藤 真哉

「個性」について考えるときに、「みんな違って みんないい」という有名な言葉があります。しかし、思春期まっただ中の多感な中学生は、つい、自分と誰かを比較して、「自分はダメだ。」「自分には価値がない。」と思い込み、落ち込んでしまうことがあります。私にも経験があります。そんなときに勇気づけてくれる話がありますので紹介します。

インドの田舎の話です。そこでは、ある水くみの少年が、毎日小川の水をくみにいっていました。その少年は、二つの壺を持っていました。ひとつは完璧な壺で、もう一つの壺にはひびが入っています。少年は、棒の端にそれぞれの壺をさげ、首に棒をかけて水を運んでいました。

ひび割れ壺は、自分をとても恥ずかしく思っていました。自分の水がもれて、半分になってしまうのが、悲しかったのです。ひび割れ壺は、ある日、小川のほとりで少年に話しかけました。「私はこんな自分がとても恥ずかしい。」「いつも私のひびから水がもれてしまい、お屋敷まで半分の水しか運ぶことができません。」「私のひびのせいで、あなたのお役に立てないのです。ごめんなさい。」

少年は、ひび割れ壺にやさしく言いました。「ここから屋敷へ帰る途中に、きれいな花が咲いていることに気が付いてほしいな。」ひび割れ壺は、帰りの丘で、美しい花々に気が付き、少し元気になりました。けれども、道が終わるころには、ひび割れ壺の水は、半分になっていました。彼はがっかりして、また少年に謝りました。すると、少年は言いました。「道ばたの花が、ひびのない壺の方ではなく、君の方にだけ咲いていたことに気が付いたかい?」「ぼくは、いつも君から水がもれるのに気が付いていたよ。だから、君の方にだけ、花の種をまいておいたのさ。君は、毎日、その花たちに、水をあげてくれたんだよ。」「君がひびのある壺だったから、僕は毎日ご主人さまのテーブルをきれいな花で飾れたんだ。ありがとう!」と話しました。



ひび割れ壺が感じていた弱さが知らないところで花を咲かせていました。一人一人が持っている「個性」は、必ず活かすことができます。かけがえのない自分の「個性」を認め、受け入れ「この自分と一緒に生きていこう。」と覚悟を決めたとき、きっと新たな道や、景色が見えてくるはずです。

クリーンアップ作戦(11月11日～15日)

11月11日(金)～15日(火)にかけて、生徒会の環境委員会が、ボランティアを募ってクリーンアップ作戦を実施しました。参加してくれた生徒たちは、乾燥室脇の中庭、職員室脇の自転車小屋の周辺、生徒玄関前、テニスコート・グラウンドなどの落ち葉やゴミを、きれいに清掃してくれました。クリーンアップ作戦への参加を通して、校地内をきれいに保とうという気持ちや、進んで集団や社会に貢献しようとするボランティア精神を高めてくれたことと思います。企画をしてくれた環境委員会の皆さん、参加してくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。



3年生 「ふくし出前講座」

3年生は総合学習で、「地域に貢献しよう」をテーマに学習を進めています。その一環として、2学期は、福祉学習に取り組みました。地域の社会福祉協議会と連携して、①福祉について(講話)②点字体験③手話体験④車いす体験・高齢者疑似体験④盲導犬との暮らしについて・ブラインドウォーク体験・白杖体験の計5回の「ふくし出前講座」を行いました。講話と体験を通して、福祉についての理解を深めるとともに、思いやりの気持ちと支え合いの心を育み、自分のできることは何かを考え、実践につなげる貴重な学びの機会になりました。



いじめ見逃しゼロスクール集会(11月25日)

全校生徒を対象にいじめ見逃しゼロスクール集会を行いました。感染症の拡大防止のために、オンライン形式で行いました。最初に、いじめ行為の定義と、豊浦中学校 SNS ルールに関するアンケート結果を共有をした後、生徒会が作成した SNS に係るいじめの動画を視聴し、その後、各学級ごとに小グループで、「いじめが起こらないように SNS を利用するにはどうしたらよいか」について話し合いました。「大切なことは SNS を使って話さず、実際に会って話をする。」等、説得力のある意見が活発に交わされました。最後に、ZOOM で各学級をつないで意見を交流し合いました。今日の話し合いを実践し、豊浦中学校から SNS で悲しい思いをする生徒がなくなることを願います。



生徒の振り返りアンケートから一部を紹介します

言葉というのは、たった一言で人の心を傷つけたり、傷つけるつもりはなくても、相手は悪口だととらえてしまったりするので、文字を打つときは、その言葉が相手を傷つけないかしっかり確認することが大事だと学びました。

文字だけでイントネーションが伝わらない SNS などでは、普通の文を打ったつもりでも、相手は違うとらえ方をしてしまうこともあることがわかりました。また、相手が、自分が考えた意味とは違う意味で受け取られないようにしっかり工夫することが大切だということを学びました。

自分が何気なく発した言葉がいじめになったり、いじめをされるきっかけになったりしてしまうことがわかりました。もし、自分がいじめにあったら相談する勇気をもつことが大切だと思いました。いじめをされて悲しんでいる人の映像を見て、あらためていじめは絶対にしてはならないと思いました。

SNS での会話は、実際の会話のように声の抑揚や相手の表情から感情を読み取ることができないので、すれ違いが起きやすいと思いました。自分もよく SNS を使うので、相手に不快な思いをさせることがないように気をつけて使いたいです。

言葉使いには気をつけなければならないと思いました。言い方の違いで、相手を傷つけたり、いじめにつながったりすることがわかりました。誤解を招く文書を書き込まないよう日頃から気をつけて SNS を使用し、文書を送ってきた人の気持ちを考えてから送信しようと思います。

各種大会、コンクールの成果を紹介します

○新発田市民総体陸上大会

中学2・3年男子 1500m 4位 石井 杜和（とわ）
 中学共通男子 800m 3位 石井 杜和（とわ）
 中学1年女子 100m 3位 加藤 莓花（いちか）
 中学共通女子走幅跳 2位 加藤 莓花（いちか）

○下越地区新人陸上大会

共通男子 800m 2位 石井 杜和（とわ）
 2年男子 1500m 3位 石井 杜和（とわ）
 共通女子 100mH 1位 加藤 莓花（いちか）
 1年女子走幅跳 1位 加藤 莓花（いちか）

○少年少女親善オリンピック長岡大会

女子走幅跳 1位 加藤 莓花（いちか）

○新潟県女子ソフトテニス1年生大会（下越・新潟地区大会）

2位 鈴木ひまり・田坂知紗希ペア



○令和4年度「健康作りの絵と標語」標語部門

最優秀賞（食習慣） 渡邊 椿（つばき） 受賞標語（右下）

奨励賞（運動習慣） 佐藤 翔吾（しょうご）

吉田 碧莉（あいり）

奨励賞（健康管理） 片山 歩美（あゆみ）

佳作（食習慣） 石井 美育（みく）

円山 結衣（ゆい）

瀬賀 翼（つばさ）

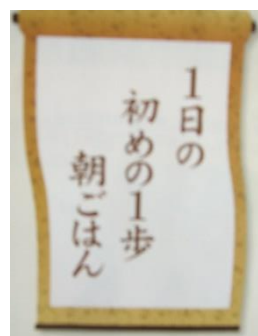
田中 悠斗（はやと）

佳作（運動習慣） 堀川 尚暉（なおき）

加賀田 怜大（れお）

高橋 悠（ゆう）

圓山 凱琉（かける）



○中学生の税についての作文

新潟県新発田地域振興局長 高野 美紀（みき）

○全国中学生人権作文コンテスト新発田地区大会

優秀賞 臼井 乃愛（のあ）

嘉 拓人（たくと）

優良賞 金田 遥心（はるみ）

